

## 全校道徳（阪神淡路大震災から30年）より

今年、阪神淡路大震災の発生から30年です。今の子どもたちは当然生まれていませんし、この震災を知らない先生も増えています。そこで、老婆心ながら経験を伝えたいと考え、1/20(月)の1時間目をもって、全校道徳の形で授業をさせてもらいました。まず、家の人に30年前のことを聴いてくるという宿題を出しましたが、ご協力ありがとうございました。授業では、震災から20年を機に放送された「ORANGE ～1. 17命懸けで闘った消防士の魂の物語」の、隊長が当時を回想して若い消防士たちに事実を伝える場面を視聴させ、被災するということについて気づかせたり、考えさせたりする時間にしました。

最後のまとめでは、神戸の元校長先生が講演された話を、当時の校長先生から伝え聞いているものを利用して、「真冬の寒さに耐えるために、教室にある教科書やノート、ワーク類、カーテン、机の天板をはじめとして、校内にある燃えるものは全て燃やされた。当然足りないため、職員室に来て『燃えるものを出せ』と要求する。先生方は事務室と校長室に大事なものを隔離し、『この二つの部屋にだけは入らないでくれ』と避難所の代表者と話し合いをした。それでも生きるために必死な人たちは入ろうとするので、先生方は交代でこの二つの部屋に寝泊まりし、学校を守った」「2、3日すると、数名の生徒がボランティアに来るようになった。一番苦労したのは水洗トイレで、水が流れないため、たまるものが当然たまる。それをボランティアに来ていた中学生が一生懸命に片付けしていた。また、配給物がきても強い者が多くとり、弱い者には当たらないという状況があったが、それを解決したのも中学生だった」…被災するということは想像を超える大変さです。それを知っておいてくれることを願います。

### 授業後の生徒の感想

- いつ巨大地震や他の災害が起こるか分からないので、1日1日を大切に過ごしていくことが良いと思った。今の日常を当たり前と思わず、自分の周りで支えてくれている家族や友だちをもっと大切にしたい。
- ぼくは消防士になろうと思いました。これからは人のために生きていきたいと思います。
- 災害復興のために活動している消防士、自衛隊の方々のおかげで、今の日本があることを忘れてはいけないと思った。助かる人を助け、助からないと思った人は助けられないという決断には、本当に胸を打たれた。
- 改めて命の大切さを学ぶことができました。命は儂く、何よりも大切であり、かけがえのないものだ気がしました。いつ地震や災害が起こるか分からないため、今大切にしている人への感謝を忘れず、もし災害が起きたとしても一緒に行き続けられるようにしたいです。
- 地域の人たちと協力して、自分が今できることを考え、命を助けたり、みんなを元気づけたりすることが少しでもできる、役に立つ人間になりたいと思いました。

### 確かな学力

2年生のラーニングに、11月末に行った職場体験の報告書を、新聞形式でまとめたものが掲示されています。現在、高校での探究学習に対応できるよう、本校でも「習得・活用・探究」の学習スタイルに基づき、総合的な学習の時間を中心に、探究学習に取り組んでいます。その一環として、体験したことを「まとめ・表現させる」ことで、確かな学力の育成につなげようとする取り組みです。



### 豊かな心

1年生のラーニングには、新聞記事を活用した掲示物があります。これはNIE(新聞を教育に)と呼ばれるもので、昨今低下している身の周りで起きている出来事への興味・関心を高めたり、新聞記事を使用して物事について考えさせたりすることをねらっています。プチ道徳として短学活で活用することで、道徳心の育成にもつながる良い活動です。

